

農商工連携の研究

Study on Objectives of Collaboration between Agriculture
(including Forestry and Fishery), Commerce and Industry

渡邊 明¹

Akira Watanabe

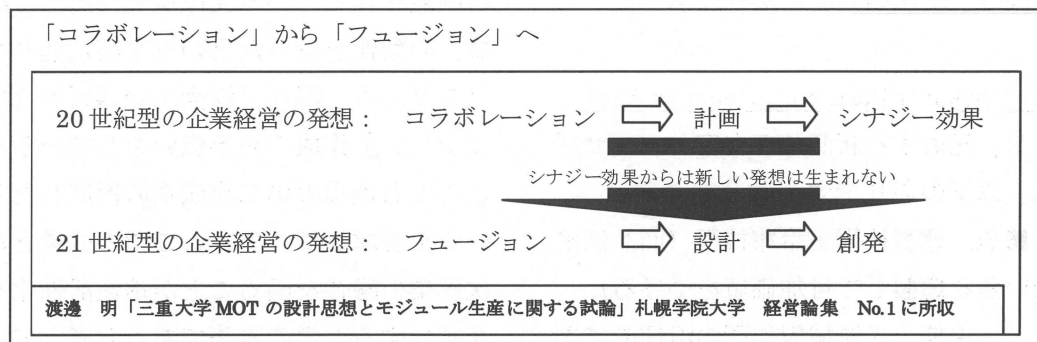
1 はじめに

戦略的パートナーシップをデザインすることが三重県の産業政策でも重要な論点になっている。今までは、第1次産業、第2次産業、第3次産業に対して別々の独立した産業政策を作っていた。これからはどのように融合させるのが課題となる。一時期、第6次産業と言われた時代もあるが、それはあくまで農業の経営形態の新しい形として提唱された形態であった。将来起こるであろう産業構造の大変化を前提にするとともにきめ細かい政策・デザインの研究が要求される。1+1=3的なシナジー効果の

追求をやめ、比喩的に言うと「1+1=犬」のようなものを設計する創発的な政策が必要である。第三銀行との間で行っている共同研究が三重県産業政策作成のための一助となればと思っている

2 研究上のスキーム

農商工学連携の枠組みで行ってきた活動の基本コンセプトは、以下の図のように見たこともないものを作り出すということが研究会の合い言葉である。そのねらいは「コラボレーションからフュージョンへ」を追求することである。



我々の研究は、第1次産業と第2次産業及び第3次産業のフュージョン（融合）から見たこともないような新商品の開発と産業構造の革新を考えていくことになる。

3 見たこともない商品をデザインする ～光機械製作所の燻製機～

光機械製作所で行った新商品発表会の内

容は、以下のような文書を県庁の記者クラブに流した。

「三重大学と第三銀行は、農商工連携の勉強会・研究会を通じて、地域の企業とのコラボレーションを追求してきました。その過程で、新商品の開発をおこない、地域の活性化をデザインしようとしてきました。そこでのコンセプトは、参加していただい

1 三重大学名誉教授 Emeritus Professor, Mie Univ.

た色々な企業との戦略的連携をとりながら、インターセクター・ディスカッション（異なる業態の方々との議論）を頻繁に行い、見たこともないような創発効果をねらった商品開発をめざしてまいりました。最終的な目標は、燻製、乾燥、ペースト、冷凍技術を駆使して、農商工連携、または地域資源活性化のスキームに合う商品を開発することです。

研究会が始まってから1年たちましたので、以下の要領で、中間報告として新商品の発表会と研究会を行いたいと思います。

日時：2010年5月7日 14:00～

場所：光機械製作所会議室（江戸橋駅 名古屋方向の踏切の近く）

三重県津市一身田中野8-1 TEL. 059-227-5511(代)

地図は、下記のURLにあります。

<http://hikarikikai.co.jp/access.html>

当日、発表する新商品の内容とコンセプトは、以下の通りです。

■魚+燻製技術+冷凍技術（商品価値がない魚を燻製して付加価値をつける）

冷燻、光機械製作所の温燻のできる燻製機を利用して商品を作り、テクニカン社の冷凍技術で長期保存を可能にしたもの。

アジ・さば・カジキマグロの冷燻、マンボウどんぶり、etc.の冷凍食品

■イノシシ肉・鹿肉+燻製技術+冷凍技術

冷燻、光機械製作所の温燻のできる

燻製機を利用して商品を作り、テクニカン社の冷凍技術で長期保存を可能にしたもの。

■魚介類+冷凍技術（値段の下がった魚介類の活用商品）

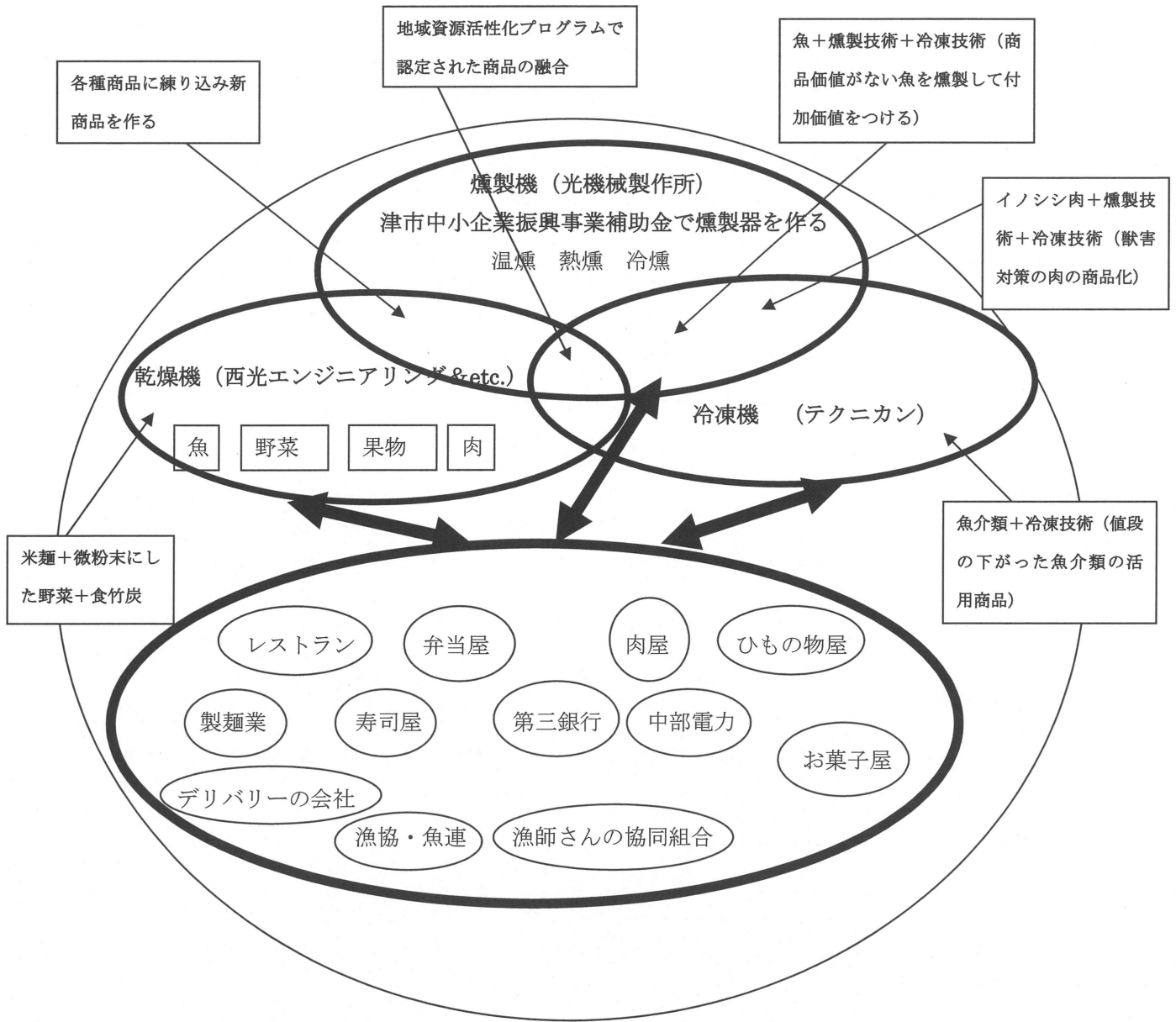
テクニカン冷凍の牡蠣雑炊、テクニカン冷凍の鮎雑炊

■その他 渡邊が考えていることを検討します。」

これらの商品は、本来ならゴミとして廃棄されたり、形が悪く商品化できないので廃棄されたりするものに何らかの加工を行って付加価値をつけてより高度な商品を作るための研究のスタートであると位置づけている。

地場の第二次産業のリソースを徹底的に調べ上げることが必要になる。その過程で研削盤を作っている光機械製作所が「燻製機」の製作を行ったという事実に辿り着いたのである。現在、津商工会議所の『中期ビジョン』作成のお手伝いをしているが、ここでも地場の第二次産業の徹底したリサーチを要求している。ここでの成果と第一次産業の融合を図ることが地域活性化をデザインする大学の責務であると考えている。その場合、第三次産業との融合も前もって考えておかなければならないことは言うまでもない。そのための装置を別の研究で「伊勢神宮ネットワーク」として用意している。売れなければ作った製品は「ゴミ」と同様だからという発想に常に立っているからである。

第三銀行との実験の内容は、以下の図のように示される。



作成：三重大学 渡邊 明